# 問題意識を持とう

国際航業株式会社
代表取締役社長　友納　春樹

先日NHKテレビを視ておりましたら，「時の記録」という番組をやっていました．昭和57年7月23日に放送されたものの再放送であり「85歳の執念 土光敏夫」という内容でした．

土光敏夫さんはご存知とは思いますが，石川島播磨重工業，東芝の社長，経団連の会長を務められた経済界の重鎮として知られた方ですが，番組の内容は，昭和56年から2年間第二次臨時行政調査会の会長をされているときの生活を中心にまとめられたものでした．

行政をスリムにして増税なき財政再建を目標として老骨にむちを打って，日本を何とかしたい，何とかしなければと考え懸命に努力されておられる姿が映し出されていました．

土光さんと言えばメザシを好んで召し上がる方で有名ですが，その質素な生活が克明に描かれており，増税なしで財政再建が可能であるという主張が，説得性を持って訴えられており大変な感動を覚えました．新しい時代に向けて日本中がもがき苦しんでいる現在，土光さんのような信念を持ち，強いリーダーシップを持った人を国民が望んでいることを言いたくてNHKではあの番組を再放送したものと考えました．

土光さんの言葉で有名な言葉があります．

『真に我々が取り組むべき問題とは，現状にとらわれずに「あるべき姿」を，ありありと頭に描いたとき，「いまの姿」の中に見出す不足部分を指すのである．「問題意識」を持つとは，このギャップを意識することを言う．したがって，問題は「あるべき姿」を求めて，日々真剣に自己の任務を掘り下げ追求し続ける意欲のある人にのみ，その真の姿を現すのである．問題とは発見され創造されるものだ』

大変含蓄のある言葉であると思います．日本が高度成長時代，バブルの時代を経てある意味では混迷の時代に入っています．新しい時代を全員で切り開いていかねばならない時であることは確かであり，何が問題であり，何が新しい時代のニーズであるのか真剣に考えていかねばならないでしょう．こんな時，土光さんの言葉は大変貴重なものと考えられます．

若い人たちとよく仕事をする機会が多いのですが，私が強く不満を感じることは，仕事の内容を明確に定義して与えると，大変手際よくこなしますが，考えないとできない仕事や，真の問題点が発見できないと解決できないような仕事，新しいものの企画といった仕事を与えるとなかなか上手にできないということです．

これは今の受験制度，教育制度に大きな問題が有るのではないでしょうか，高校，大学に進学す


© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

るために，懸命に努力していることはよく理解できるのですが，勉強する内容が記憶中心であり，偏差値にこだわる教育であるようです．考えることや，創造力をつける教育が大変不足していると思います．詰め込み主義の教育，偏差値に偏った教育は学校に対する不平，不満を生み今日問題となっている校内暴力の要因の1つではないかと考えます．もっともっと考え，創造力をかきたてるような教育内容にすれば，楽しい教育になり，有能な人材が多く出てくるでしょう．単純な仕事の繰り返しを行わせると人間のモラルが落ち作業効率が悪くなりますが，たとえばTQC活動を導入し職場の問題点は何かを皆で検討し，解決案を作成して職場の改善を行ってもらうとモラルが向上し職場が明るくなって，作業効率が向上することは多くの事例が示しております．土光さんの言葉ではありませんが，常に問題意識を持たせ，問題は何かを考えるようにすれば人間は成長していくものであり，問題意識を持つことが何よりも大切ではないでしょうか．

右肩上がりの経済成長時代に頭脳を使わないで仕事をしてきたとは思いませんが，主として行ってきたことは，新しいことをしなくとも過去の事例に従い，懸命に働けばそれで良い時代でありました．今の混迷の時代は過去の事例をいかに研究しようが役に立つものはほとんどなく，すべて新しい道を切り開いていかねばならない厳しい時代であると思います．

右肩上がりの経済成長時代に会社を支えてきた人たちは，真の問題を考え新しい道を切り開いた経験が少ないので大変厳しいかもしれませんが，それに耐えて問題を追求し，考え続けていかない限り新しい時代は迎えられないと思います．

私どもは新しい事業として地図情報システムの基盤システムである，EARTH FINDERという製品を開発し地図システムのシステム・インテグレーションを開始しました．事業を始めるにあたり顧客のシステム開発で成功するための要件は何か調査したところ，システム開発の最初に行われる要件定義のフェーズでどれだけお客様側の問題点，ニーズを詰めきれるかであることがわかりました．問題点，ニーズを徹底的に検討しないでシステム開発を行うと，お客様の満足するシステムの提供ができなくなります．そこで当社ではシステムの要件定義フェーズでお客様の問題点，ニーズを効率よく抽出する手段としてGSIM（GIS Successful Implementation Method）を開発し活用しております．GSIMは当社のコンサルタントが中心となりお客様の関係者が会議形式で徹底的に議論していただき，問題点，ニーズを明らかにするものです．実際にGSIMを使いシステム開発を行った例ではお客様の満足をいただいておるようです．これなども物事を行うに当たり問題意識を持ち問題を見つけ出すことがいかに重要であるかの例ではないかと考えます．

土光さんの言葉にもありますように，問題意識を持ち続けない限り真の問題を見つけ出すことができず，難しい時代を生き抜いてはいけません．私も問題意識を持ちながら生きていきたいと考えております．

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．